

「落葉松の轍(わだち)」

秋に落葉樹が紅葉して葉を落とす理由の一つは、葉の上に雪が積もって、その重さで枝が折れるのを防ぐためです。常緑樹は、たとえばモミの木のように、雪の重さに耐える枝のしなやかさを持っているか、そもそも雪が降らない地域に自生しています。

秋から晩秋にかけて、落葉樹は一刻も早く葉を全部落とさなければいけません。事実、ブナの木は落葉が少しでも遅れて初雪に間に合わないと、枝を折られてしまいます。大木といえども、太い枝が折れると枯死することもあるのです。人から見ると美しい落葉の風景も、落葉樹にとっては死活問題・・・まさに必死の落葉なのです。



「落葉松の森」

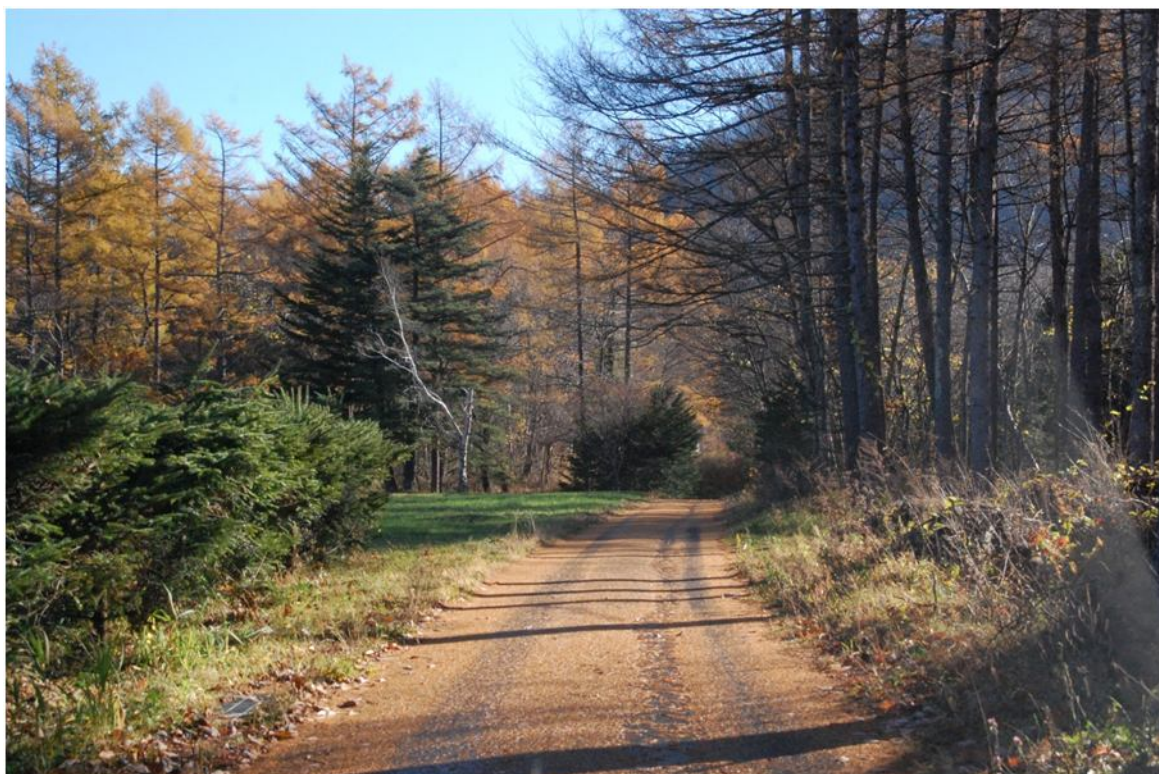
黄金色に色づく、あっという間に全部の葉を落としてしまいます。(北軽井沢)

カラマツは、「落葉松」の名の通り、針葉樹では珍しく秋に葉を落とします。ミズナラやシラカバなどの落葉広葉樹と比べると落葉の時期は遅く、浅間高原では11月上旬に葉を落とします。落とし始めると、それはもう先を競うように、あっという間に全部の葉を落としてしまいます。北軽井沢にはカラマツの木が多いので、11月上旬には、まるで金色の雪が降っているような、幻想的な光景が見られます。

カラマツは短期間に一気に葉を落とすので、道もカラマツの落葉だらけになります。風や雨で飛ばされる前に、一日で道一面が黄金色になってしまいます。そこを自動車が通ると、雪道にできる轍（わだち）か線路のようにタイヤのあとが付きまます。毎年、ほんの数日間だけ見られる、高原の風物詩です。



「北軽井沢交差点へ向かう県道」 ちょっと滑りやすいので、ブレーキに注意です。



「私の山荘への道（町道）」 この道はさまざまな動物が通ります。今までに見たものは、ネコ、キツネ、タヌキ、アナグマ、アライグマ、イノシシ、ハクビシン、タナカ、チヒロなどです。

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）